

VI 常設委員会

教育予算委員会

1. 構成員

[委員長] 及川郁子（臨床看護系Ⅰ）

[委員] 菱田治子（教養・基礎系）、山田雅子（基礎看護系・センター）、田代順子（臨床看護系Ⅱ）、高橋昌子（教務部）、島田裕司・豊島景子・森島久美子（事務局経理課）

2. 職務・役割

予算委員会は、常設委員会として組織上は位置づけられているが、委員会委員の選出および活動は2010年11月～2011年1月までである。

- 1) 学部および大学院等の正規の教育活動および委員会活動に係る次年度予算の申請を概算要求基本方針に基づいて調整し、とりまとめる。
- 2) とりまとめた申請予算について、学園理事長、学長および事務局長へ報告する。

3. 活動内容

- 1) 2011年度教育予算について、予算委員会で次のように予算申請の調整を行い、予算総額55,668千円とした。
 - (1) 予算委員会開催：予算委員会の日程調整、予算申請方法・配布資料の確認、予算申請書の審査、修正予算の確認のため、計4回の委員会を開催した。
 - (2) 教育予算基本方針：教育予算を検討するにあたり、教育の質の担保に不可欠な予算を優先し、可能な限りの経費削減に努めることとした。
 - (3) 予算申請に関する説明会：2010年11月16日（前年度より20日ほど遅い）全職員に、「2011年度予算編成方針」「2011年度の教育予算の概算要求に当たっての基本的な方針について」「予算申請用紙」についての説明会を行い、2011年度教育予算総額は45,000千円以内を目標とすることを伝えた。また、予算関連の資料はイントラにアップし、周知を図った。
 - (4) 予算調整にあたって
第一次予算申請総額は113,368千円（2010年度申

請額より55,049千円増）であり、68,368千円の削減が必要であった。委員会では、申請された教育予算について以下の点を確認・検討した。

- ① 授業に関する科目予算および教務予算については、申請基準に照らし、i 申請根拠、ii 優先度、iii 単位数および教育内容・方法、iv 研究費との関連の4点をもとに、教育予算として適切であるか否かを検討した。
 - ② 委員会活動予算については、委員会活動の内容と照合し適切であるか否かを検討した。
 - ③ 新規申請および増額予算については、その理由や必要資料の添付による説明を求め、教育予算として妥当であるか否かを検討した。
 - ④ 必要時予算担当者にヒアリングを行い、実質的に必要な予算のみを計上することを徹底した。
 - ⑤ 教育・研究活動に不可欠な、図書館予算48,040千円の設備整備費および情報システム委員会予算6,640千円のIT関連整備については、大学全体に掛かる費用として教育予算と切り離れた。
 - ⑥ 今回の委員会では、2011年度実習費等（実習謝金、実習打ち合わせ費用、非常勤講師、特別講義）に関する予算について検討する機会が設けられ、実習等に関連する予算申請については申請基準に照らし検討した。
- 2) 2011年度教育予算調整結果申請された教育予算に対し最大限の削減修正を行った結果、最終予算は55,66千円（大学院研究費7,400千円を除くと48,268千円）となり、目標の45,000千円には届かなかった。増額した理由は、以下のことが考えられた。
 - ① 学部学生が増加している
 - ② 大学院に新たな専攻領域が新設され、それに伴う科目数が増えている
 - ③ これまで補助金で申請していた機器・備品の申請ができなくなった。
 - ④ 機器・備品の耐用年数が過ぎ、買い替えの必要のあるものが増えてきている。
 - ⑤ 大学院研究費が教育予算を圧迫している。

4. 課題

2011年度教育予算調整の過程において、今後の課題を

次のようにまとめた。

- 1) 大学全体の長期および短期将来構想に基づいた単年度計画の明確化とその予算化を実現するため、申請予算の検討に先だてこれらのことが明らかにされる必要がある。
- 2) 将来構想および単年度計画に基づいた適切な予算申請を実施していくには、予算委員会の設置が予算申請時期ではなく、それより数カ月前とすることが望ましい。
- 3) 今回、e-learning を利用した授業内容を推進するために科目レベルでの申請があった。施設整備、IT 関連整備に関する経費は高額となり、大学全体としてのシステムを見据えての計画的な予算化が必要である。
- 4) 機器・備品に関しては、耐用年数、学生数を考慮して計画的に買い替えを行っていくための予算化が必要である。
- 5) 予算削減のためには、現在行われている科目ごとの予算申請について、カリキュラムの変更に合わせ領域ごとにまとめることや、毎年経常的に必要な予算はそのまま認め変更部分のみを申請するなど、申請方法を検討する。新規申請、増額申請にあたっては、引き続き説明書や資料の添付を徹底する。
- 6) 実習関係費用の取り扱いおよび大学院の特別講義時間数についての基準を設けることが必要である。
- 7) 大学院研究費については、実習費等を考慮するなど取扱方法を検討する。
- 8) 実習等の謝礼・手土産用に大学専用の菓子をつくるなど、予算削減の工夫を取り入れる。

広報委員会

1. 構成員

[委員長 (部課長)] 江藤宏美

[委員] 池口佳子、伊藤和弘、卯野木健、大畑美里、大森純子、片岡弥恵子、角田秋、蜂ヶ崎令子、山本由子、稲田昇三、櫛田智恵美、高鳥直人、中村寧孝、福田昌、山口喜義

2. 役割・職務

広報委員会の広範囲にわたる役割をスムーズに、効率よく遂行するために、チーム制にして各プロジェクトを自律して遂行した。

- 1) オープンキャンパスの開催：リーダー・大森

サブリーダー：卯野木・福田 (広報室)

メンバー：高鳥・櫛田・中村・角田・山本・池口・大畑・稲田・蜂ヶ崎

- 2) 大学ホームページ作成：リーダー・卯野木、メンバー・江藤・高鳥・福田・中村
- 3) Active Page 作成：リーダー・江藤、メンバー・卯野木・高鳥・福田・中村
- 4) 白楊祭の参加・企画：卯野木、江藤、大森、池口、大畑、角田、山本、高鳥、中村、福田
- 5) 学園ニュースの編集・発行、2011-2012 大学パンフレット制作：伊藤、片岡、蜂ヶ崎、稲田、進藤(広報室)
- 6) 学生広報委員会：蜂ヶ崎、山本、福田

3. 活動内容

プロジェクトごとにチーム制にし、年頭に目標を立てて行った結果、それぞれのチーム内での話し合いも詳細に行われ、大きな成果が上がった。以下の通りである。

- 1) 新たな形式および体制によるオープンキャンパスの企画・運営

オープンキャンパスは、これまで土曜・日曜の午前開催、開始から終了まで一括したプログラムで実施してきたが、昨年度までの、特に日曜の来場者数の増加やニーズの多様化などの傾向を検討し、今年度からは新しい時間帯・形式・体制で実施することを企画した。いわゆる進学校 (高等学校) では土曜の午前に授業を行っている現状に合わせ、開催する時間帯は土曜・日曜の午後開催とし、参加者が都合のよい時間帯に自由に会場に出入りし、ガイダンスや相談 (入試や学費など)、学生との懇談、学内見学ツアーなどの各コーナーに随時参加できる形式を導入した。体制としては、前年度から学生広報委員と共同で企画し、運営は学生広報員・学生ボランティアと共に行った。開催する時期は、6月下旬・7月下旬・8月上旬の3回とし、昨年度と同様に大学院入学志願者向けのオープン研究室と同時開催とした (各回の来場者数：表1参照)。

- 2) 大学ホームページのリニューアル

作成に当たり、従来とは異なり、レンタルサーバを使用し、CMS (Contents Management System) を導入したシステムを取り入れた。CMS 導入により、従来よりも更新しやすい (複数の人が更新可能な) システムをめざした。さらに、樹状構造を見直し、

ホームページの主な対象である受験生が必要な情報にアクセスしやすいよう工夫した。公開は4月以降になる見込みである。

3) Active Page (website) の開設

本 Web Site は、大学ホームページサイトを補佐するという位置づけで、開設に係わった大学の構成員が責任を持って公開する Web Site である。情報公開を希望する大学の個人や団体が、自由かつ簡便に作成・公開できる Web Site として整備する事を目指している。聖路加看護大学の Activity を一般社会に報告する Site で、本年度はその公開準備を行った。現在、Hardware, Operating System, Services, CMS の構築までが完了している。Hardware の仕様概要は、CPU=Pentium D, RAM=8GB, HDD=500GB×2(RAID 1) であり、CMS は Movable Type 5 である。

4) 白楊祭の参加・企画

白楊祭の受験生相談コーナーにおいて、相談コーナー対応（主に父母対応）、学生広報委員との連携、物品発注・管理（飲み物、ネームプレート等）を行った。

5) 学園ニュースの編集・発行、2011-2012大学パンフレット制作

学園ニュースは、291号から294号まで4号発行した（表2参照）。293号から、学生への配布を中止し、大学イントラネットへ掲載した。

大学パンフレットは、既製の2010-2011版をベースに、2011-2012版を新たに6,500部作成した。新カリキュラムへの変更、養護教諭一種の卒業生や大学院助産学修了生の紹介などを新たに取り入れた。また、紹介する学生は学生広報委員会からの推薦を受けるなどの配慮を行った。

6) 学生広報委員会との連携

2010年度の学生広報委員会との共同開催回数は7回であった。内容はオープンキャンパス、白楊祭、母校訪問について詳細に話し合い、広報活動を展開した。

オープンキャンパスでは、今年度から新しい取り組みとして行ったコーナー制で、事前に詳細な計画を練り、学生主体の運営を行った。白楊祭では、受験生相談コーナーを連携して行った。夏休みに企画した母校訪問では、総数19件（うち直接訪問16件、大学よりパンフレット送付3件）実施した。

4. 課題

プロジェクトチームによる各活動は、ほぼ目標通りに遂行することができたが、他部門や委員会、各部署との連携は今後の課題である。また、今年度は新方式のオープンキャンパスの開催を重点的に取り組んだが、次年度は大学ホームページを始めとするウェブサイトにも力点を置いて展開していく必要がある。

以下は、各プロジェクトの課題を挙げた。

1) オープンキャンパス

- ①土日の施設管理上の対応：2号館およびチャペル棟正面玄関の開放と警備体制
- ②広報ツールの開発・検討：販売グッズの充実と書籍販売の導入
- ③受付時間前の来場者への対応：受付開始時間の設定・受付開始前までの待機場所
- ④ホールプログラムの検討：学生による歓迎の言葉などや模擬授業の順序
- ⑤各コーナーの内容的な工夫・検討
 - ・教員によるツアーの廃止：学生によるツアーに一元化
 - ・看護技術体験の内容の充実⇒学生広報委員会と検討（学生自治会やサークルとの連携）
 - ・学園生活紹介の内容の充実⇒学生広報委員会と検討（学生自治会やサークルとの連携）
 - ・アーツルーム（和室・小部屋舎）のディスプレイ
 - ・大学データに関するパネルの内容更新⇒広報室との連携

2) 大学ホームページ

- ①大枠は完成しているが、公開までに詳細な部分の検討
- ②新しい樹状構造に沿って、受験生が必要とする情報をさらに検討
- ③アクセス解析による、公開しているコンテンツが適切か否かの評価と改善
- ④更新を多くの教職員が自主的に行うための意識付けと、簡便に更新が行えるようなシステム構築

3) Active Page

- ①適切な情報公開 Page の掲載や当該 Web Site の利用者管理等を行う。
- ②Contents の作成・掲載・更新等は全て利用者に委任し、自由に活発な情報発信の場になるよう支援体制を整える。

③内容については、Web Site 全体としてのデザイン的な統一感を維持するために、掲載の方法や手順の支援や掲載にあたってのガイドラインを提示する。

4) 白楊祭

受付の管理、マニュアル・シフト表等内部資料の管理を行う。

5) 学園ニュース、大学パンフレット

①学園ニュースは、今後さらに学内関係者へ周知し、学外に対しては広報媒体としてアピールできるものにしていく必要がある。その戦略を具体的に検討していく。また、2011年度より大学ホームページに掲載する方針が決まっているが、一般の人々にオープンにする内容と学内に止める内容とに区

分する必要がある。この判断をいつ誰が行うか、ルール化する必要がある。

②大学パンフレットは、紙媒体と大学ホームページへの掲載において、今後、印刷冊数を検討する必要がある。デザインの共通化などを通じてコストを抑える工夫も考えられる。また、わかりやすい内容や見栄えのするデザインに配慮する必要もある。

6) 学生広報委員会との連携

①オープンキャンパス：LLS(Luke Life Support)、自治会との連携強化

②白楊祭：受付の管理、マニュアル・シフト表等内部資料の管理

5. 資料・データ

表1 2010年度オープンキャンパス来場者数

(単位：人)

	開催日時	来場者数 (前年度数)	内 訳
1回目	6月26日(土) 13:00~16:30	322 (前年度204)	学部志願者216・大学院志願者10・保護者96
2回目	7月31日(土) 13:00~16:30	803 (前年度502)	学部志願者 448・大学院志願者 60・保護者 295
3回目	8月1日(日) 13:00~16:30	636 (前年度574)	学部志願者377・大学院志願者10・保護者249

表2 学園ニュース掲載記事概要

No.	発行日 発行部数	巻頭記事/特集/その他	備考
291	2010年 4月27日	トップ「ようこそ聖路加看護大学へ」 学長 井部俊子	巻頭写真「礎を築いた人たち」
	900部	入学式 特集 新入学生のひと言集 新入教職員自己紹介	
		就職・進学支援体制について(学生部) 卒業生・修了生の進路 90周年記念祝賀会での河村潤子文科相私学部長の祝辞	
292	2010年 7月9日	トップ「2011年度からのカリキュラム改訂について」 教務部長 麻原きよみ	学生家族にも送付
	1,300部	特集 魅力的な教育を目指して一本学の特徴的な取り組み— 体育 Day	
		特別 オリエンテーションセミナー INFORMATION 2009年度決算報告	
293	2010年 12月18日 900部	トップ「クリスマスに寄せて」 国際看護学 教授 田代順子	学生家族、役員、 教職員、奨学金 財団等に送付 今号よりイント ラネットに掲載
		特集 クリスマス特集 We wish a merry Christmas! 第34回 白楊祭「夢 歩み続けよう ~1秒前の君はもういない」	

		日野原先生「白寿」おめでとうございます 表彰委員会より表彰者の紹介 交換留学生との交流（マヒドン大学・ヨンセイ大学） 内閣府特命担当大臣表彰を受ける（センター事業）	
294	2011年 3月4日 1,200部	トップ「門出を祝して」 学部長・研究科長 菱沼典子 特集 創立記念行事記念講演会講演録 「WHO プライマリヘルスケア看護開発協力センター開所時 を振り返って」 近大姫路大学 学長 南 裕子 大学院開設30年 修士1回生のあの頃 学長 井部俊子 卒業／修了おめでとうございます 「ひと言」集 INFORMATION 2011年度予算	巻頭写真「古の 学園の姿」① 学生家族、役員、 教職員、奨学金 財団等に送付 卒業生・修了生 に配付

情報システム委員会

1. 構成員

〔委員長〕 萱間真美

〔委員〕 小野智美、御子柴直子、本田晶子、高島直人、平良智子、中島薫、佐藤晋巨、秋山武則

2. 役割・職務

1) コンピュータシステムに関する運用、管理上の諸問題の検討

- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク利用規程
- ・聖路加看護大学コンピュータネットワーク倫理規程
- ・情報システム委員会規程

2) システムの運用の向上を図るための企画

3. 活動内容

1) 学生情報システム委員会に関して、今年度の主な活動は2つである。

1つは前年度作成した倫理ガイドラインの周知と評価である。学生委員は情報倫理ガイドブックのオリエンテーション等の活動を通して、教員と協力して学生の情報リテラシーとマナーの向上を図り、アンケート調査により今後の課題を明らかにした。

2つ目は印刷枚数の適正化へのキャンペーン活動である。学生が主体的に適切な印刷枚数を意識して効果的なコンピュータネットワークの利用ができるような工夫やアイデアを持ち寄り、ポスターやメールでの周知法を検討した。

2) 学修目的外使用（大量印刷物の放置行為等）を防

ぎ、学修環境の向上を図るため、印刷枚数の適正化への取り組みを検討した。過去4年間における学生の印刷枚数を調査し、1学年あたりの印刷上限値を設定した。印刷枚数確認画面も設定し、印刷枚数が印刷上限値の80%を超えた場合のアラート表示も行うこととした。アラート停止および印刷停止を解除したい場合は停止解除等申請書の提出を義務づけることとした。また、印刷物ヘッダーのID印字の有無も選択できるように設定を変更した。施行は来年度とし、一連の取り組みへの意識を高めるためにポスターキャンペーン等の周知活動を実施した。

3) コンピュータネットワークシステムの整備状況については、高性能サーバー3台を追加し、10月より院生以外のターミナルサーバー利用者全員のログイン先を新ターミナルサーバーに変更した。

4. 課題

1) 昨年度からの課題への取り組み

昨年度の年報で指摘した課題のうち、4年間の追跡調査を終了したプリントアウト枚数について委員会および学生情報システム委員会で検討し、大学としてリテラシー向上への取り組みの一環として、プリントアウト上限枚数の設定を行うことに合意を得た。枚数の設定や確認プロセス、上限を超えた場合の対応等についても学生の意見を得ながら詳細を決定し、ポスターやメール、会議での周知までを行い、次年度の実施を待つのみとなった。上限を設定する目的について共通理解を得るプロセスには1年近くをかけた。今後の運用については適宜検討し、引き続き大学全体の共通理解を得ながら進めたいと考え

ている。

2) 今後の課題

ここ数年、教員が外部から獲得した研究費によりデジタルコンテンツやWebコンテンツを開発する件数が増えている。これらのコンテンツは研究終了後に自らが担当する専門科目の教育において学生の学習効果を上げることを目的として実際に活用している授業もある。今後はこのようなコンピュータ環境を利用した教育学習サービスが本学でも増えることが予想されるため、次年度は学内における教育ニ-

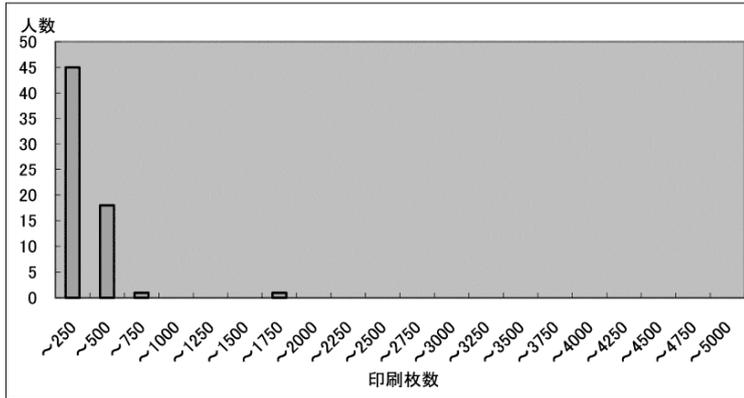
ズの把握に努めるとともに、将来に向け、ニーズに基づいた情報システム環境の整備を検討していくことが重要だと思われる。

5. 資料・データ

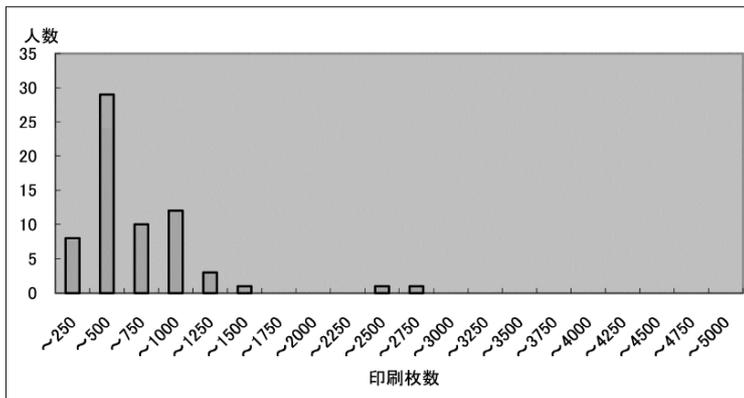
- ①印刷データ（学部4年分：入学から卒業まで）
- ②印刷データ（学士編入3年分：入学から卒業まで）
- ③印刷データ（修士2年分：入学から修了まで）
- ④印刷データ（博士3年分）
- ⑤プリントアウト枚数適正化ポスター

2006年入学(学部)

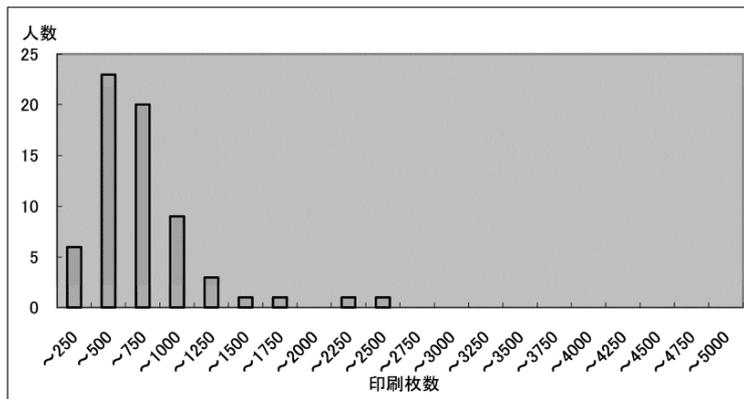
1/3



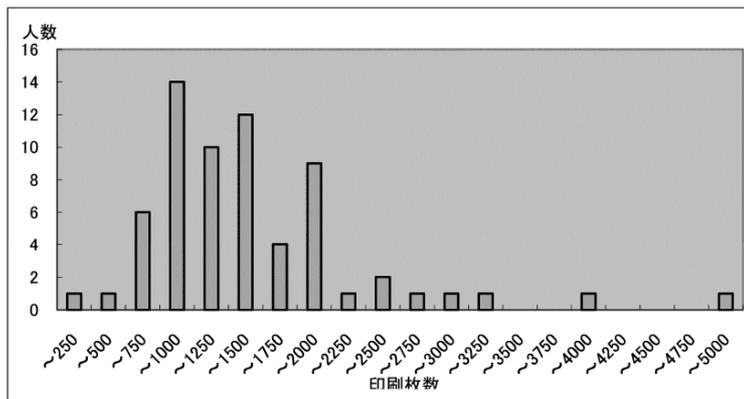
学部1年	枚数	人数	累積%
~250	45	69.2%	
~500	18	96.9%	
~750	1	98.5%	
~1000	0	98.5%	
~1250	0	98.5%	
~1500	0	98.5%	
~1750	1	100.0%	
~2000	0		
~2250	0		
~2500	0		
~2750	0		
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



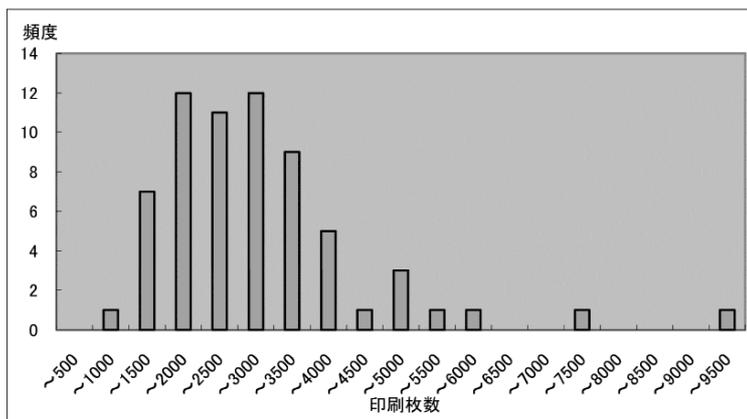
学部2年	印刷枚数	人数	累積%
~250	8	12.3%	
~500	29	56.9%	
~750	10	72.3%	
~1000	12	90.8%	
~1250	3	95.4%	
~1500	1	96.9%	
~1750	0		
~2000	0		
~2250	0		
~2500	1	98.5%	
~2750	1	100.0%	
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



学部3年	印刷枚数	人数	累積%
~250	6	9.2%	
~500	23	44.6%	
~750	20	75.4%	
~1000	9	89.2%	
~1250	3	93.8%	
~1500	1	95.4%	
~1750	1	96.9%	
~2000	0		
~2250	1	98.5%	
~2500	1	100.0%	
~2750	0		
~3000	0		
~3250	0		
~3500	0		
~3750	0		
~4000	0		
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	0		
	65		



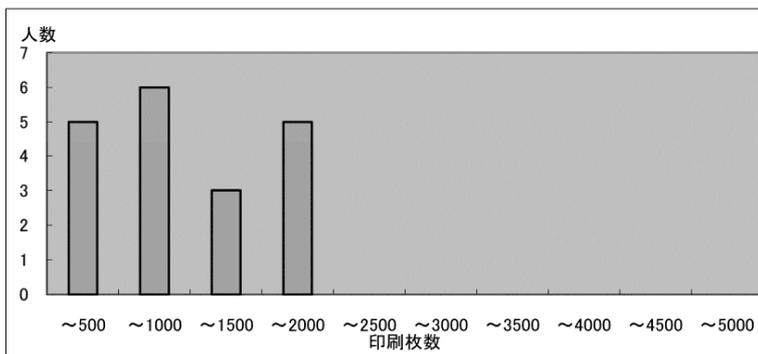
学部4年	印刷枚数	頻度	累積%
~250	1	1.5%	
~500	1	3.1%	
~750	6	12.3%	
~1000	14	33.8%	
~1250	10	49.2%	
~1500	12	67.7%	
~1750	4	73.8%	
~2000	9	87.7%	
~2250	1	89.2%	
~2500	2	92.3%	
~2750	1	93.8%	
~3000	1	95.4%	
~3250	1	96.9%	
~3500	0		
~3750	0		
~4000	1	98.5%	
~4250	0		
~4500	0		
~4750	0		
~5000	1	100.0%	
	65		



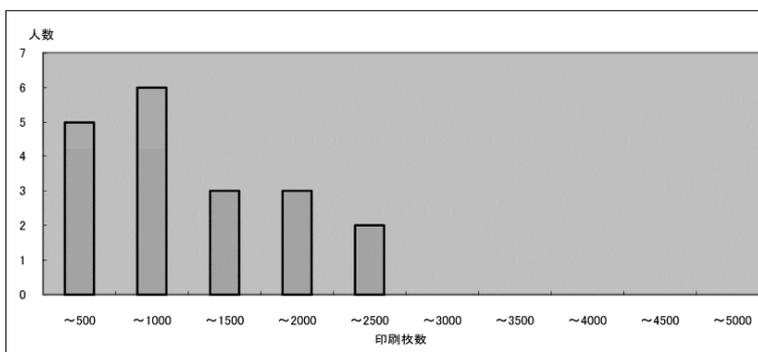
学部4年間合計

印刷枚数	人数	累積%
~500	0	0.0%
~1000	1	1.5%
~1500	7	12.3%
~2000	12	30.8%
~2500	11	47.7%
~3000	12	66.2%
~3500	9	80.0%
~4000	5	87.7%
~4500	1	89.2%
~5000	3	93.8%
~5500	1	95.4%
~6000	1	96.9%
~6500	0	
~7000	0	
~7500	1	98.5%
~8000	0	
~8500	0	
~9000	0	
~9500	1	100.0%

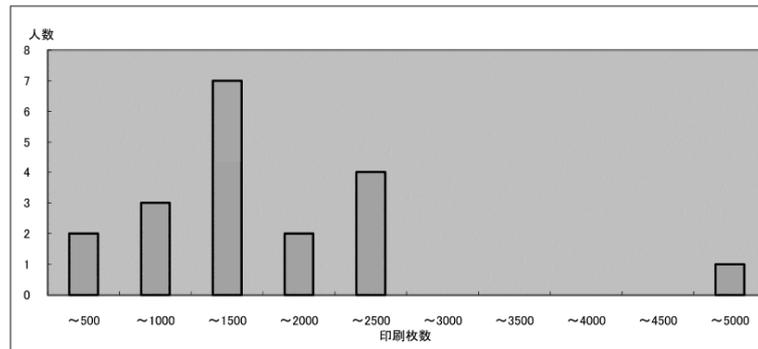
	1年	2年	3年	4年	4年間
最大	1,731	2,602	2,285	4,962	9,294
最小	16	76	38	239	961
平均	215	586	621	1,418	2,840



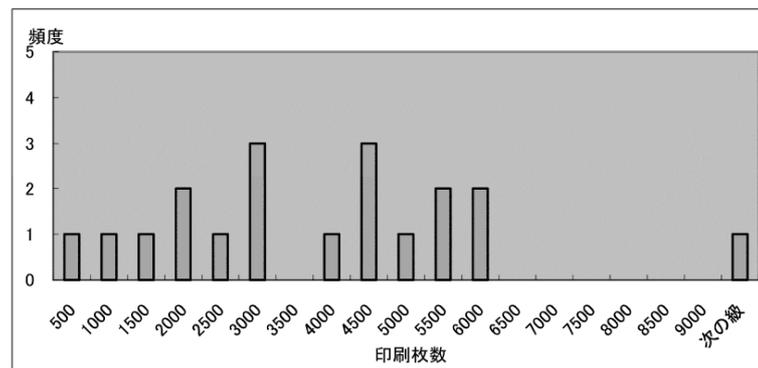
印刷枚数	人数	累積%
~500	5	26.3%
~1000	6	57.9%
~1500	3	73.7%
~2000	5	100.0%
~2500	0	100.0%
~3000	0	100.0%
~3500	0	100.0%
~4000	0	100.0%
~4500	0	100.0%
~5000	0	100.0%
合計	19	



印刷枚数	人数	累積%
~500	5	26.3%
~1000	6	57.9%
~1500	3	73.7%
~2000	3	89.5%
~2500	2	100.0%
~3000	0	100.0%
~3500	0	100.0%
~4000	0	100.0%
~4500	0	100.0%
~5000	0	100.0%
合計	19	



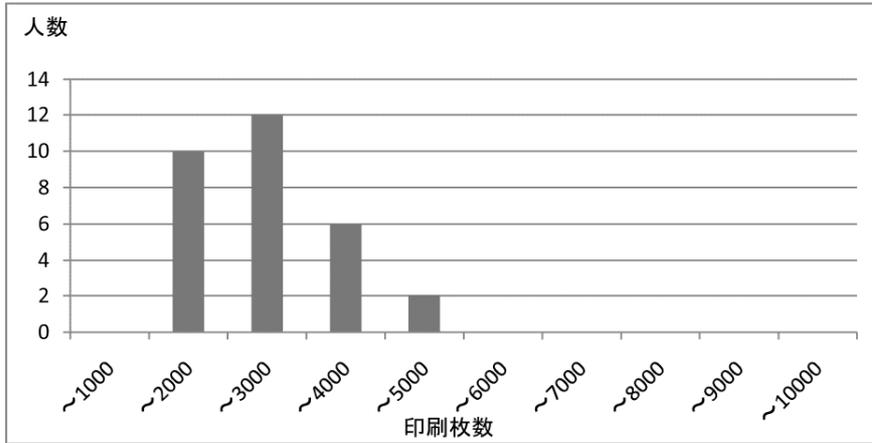
印刷枚数	人数	累積%
~500	2	10.5%
~1000	3	26.3%
~1500	7	63.2%
~2000	2	73.7%
~2500	4	94.7%
~3000	0	94.7%
~3500	0	94.7%
~4000	0	94.7%
~4500	0	94.7%
~5000	1	100.0%
合計	19	



印刷枚数	人数	累積%
500	1	5.3%
1000	1	10.5%
1500	1	15.8%
2000	2	26.3%
2500	1	31.6%
3000	3	47.4%
3500	0	47.4%
4000	1	52.6%
4500	3	68.4%
5000	1	73.7%
5500	2	84.2%
6000	2	94.7%
6500	0	94.7%
7000	0	94.7%
7500	0	94.7%
8000	0	94.7%
8500	0	94.7%
9000	0	94.7%
次の級	1	100.0%
合計	19	

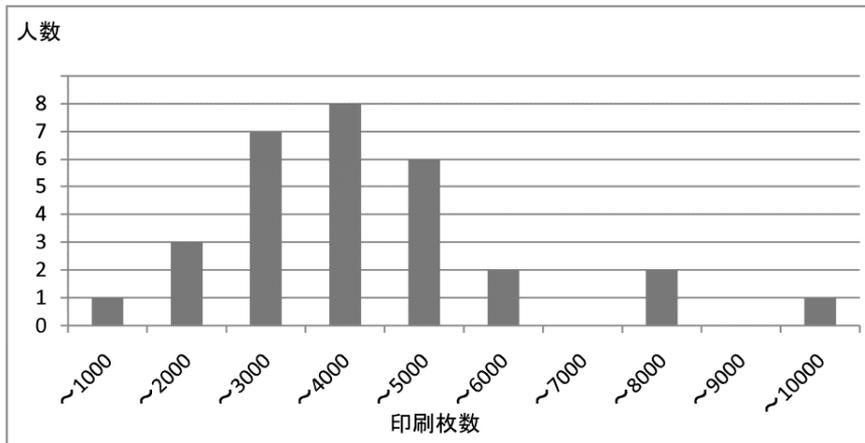
	2年次	3年次	4年次	3年間
最大	1,892	2,454	4,932	9,206
最小	14	80	115	452
平均	953	1,079	1,548	3,580

2006年度入学(修士)



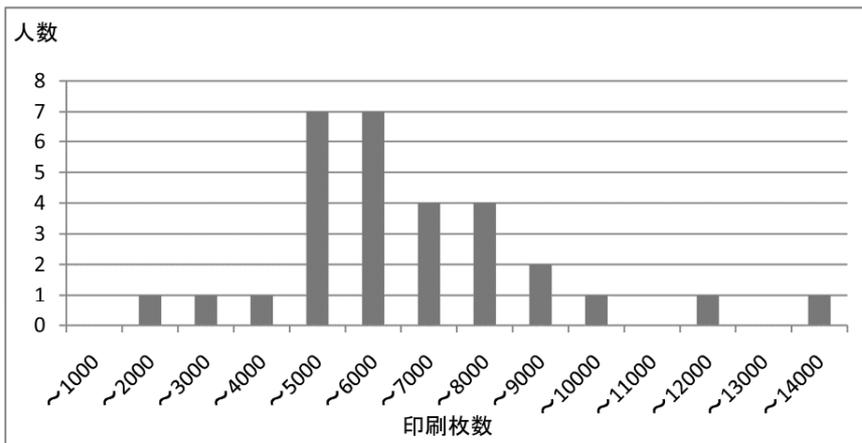
修士1年

印刷枚数	人数	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	10	33.33%
~3000	12	73.33%
~4000	6	93.33%
~5000	2	100.00%
~6000	0	
~7000	0	
~8000	0	
~9000	0	
~10000	0	



修士2年

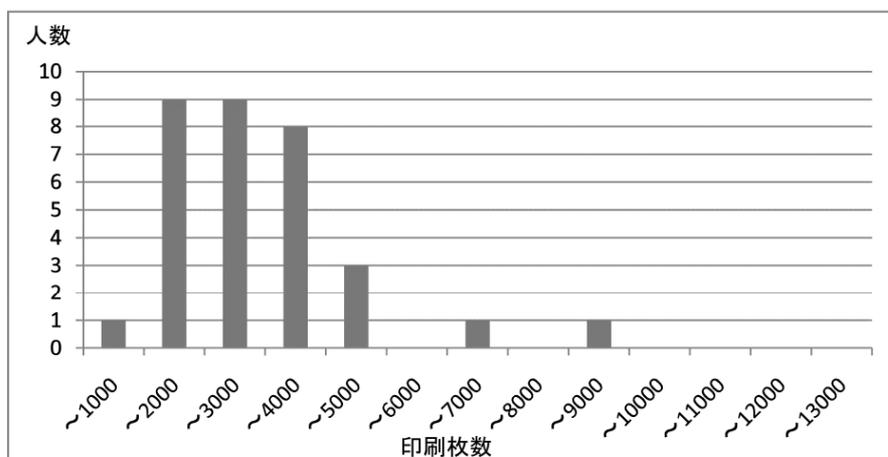
印刷枚数	人数	累積%
~1000	1	3.33%
~2000	3	13.33%
~3000	7	36.67%
~4000	8	63.33%
~5000	6	83.33%
~6000	2	90.00%
~7000	0	90.00%
~8000	2	96.67%
~9000	0	96.67%
~10000	1	100.00%



修士合計

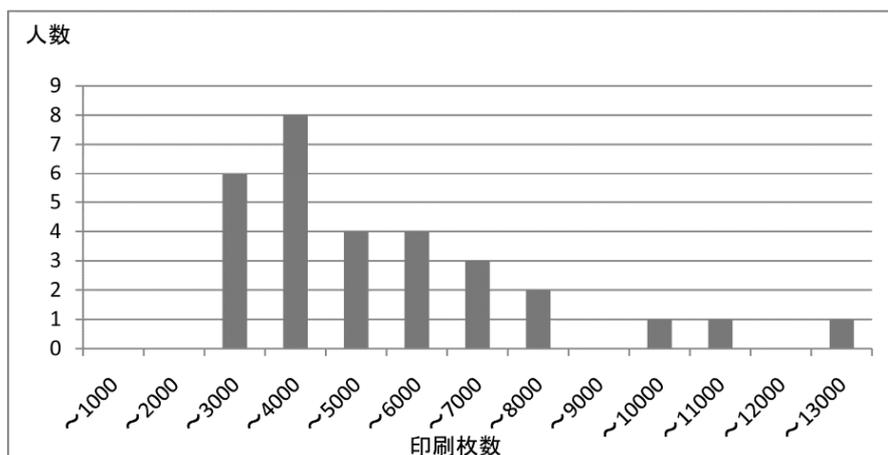
印刷枚数	人数	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	1	3.33%
~3000	1	6.67%
~4000	1	10.00%
~5000	7	33.33%
~6000	7	56.67%
~7000	4	70.00%
~8000	4	83.33%
~9000	2	90.00%
~10000	1	93.33%
~11000	0	93.33%
~12000	1	96.67%
~13000	0	96.67%
~14000	1	100.00%

2007年度入学(修士)



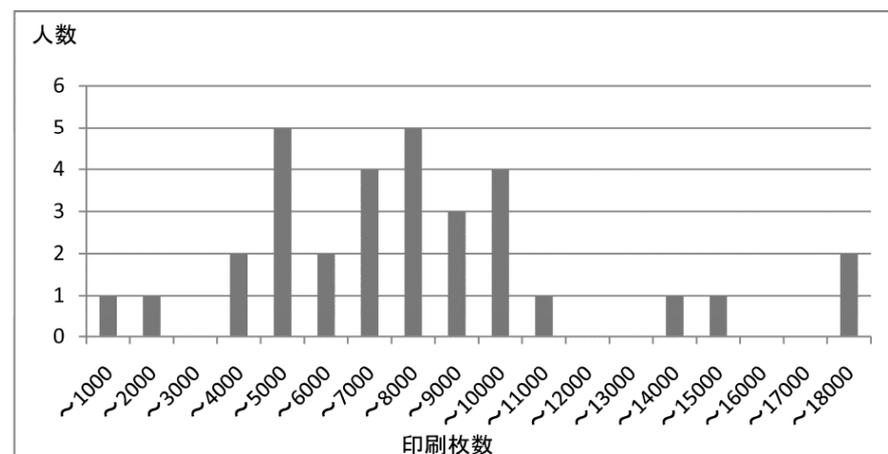
修士1年

印刷枚数	人数	累積%
~1000	1	3.13%
~2000	9	31.25%
~3000	9	59.38%
~4000	8	84.38%
~5000	3	93.75%
~6000	0	93.75%
~7000	1	96.88%
~8000	0	96.88%
~9000	1	100.00%
~10000	0	
~11000	0	
~12000	0	
~13000	0	



修士2年

印刷枚数	頻度	累積%
~1000	0	0.00%
~2000	0	0.00%
~3000	6	20.00%
~4000	8	46.67%
~5000	4	60.00%
~6000	4	73.33%
~7000	3	83.33%
~8000	2	90.00%
~9000	0	90.00%
~10000	1	93.33%
~11000	1	96.67%
~12000	0	96.67%
~13000	1	100.00%



修士2年間合計

印刷枚数	頻度	累積%
~1000	1	3.13%
~2000	1	6.25%
~3000	0	6.25%
~4000	2	12.50%
~5000	5	28.13%
~6000	2	34.38%
~7000	4	46.88%
~8000	5	62.50%
~9000	3	71.88%
~10000	4	84.38%
~11000	1	87.50%
~12000	0	87.50%
~13000	0	87.50%
~14000	1	90.63%
~15000	1	93.75%
~16000	0	93.75%
~17000	0	93.75%
~18000	2	100.00%

2006年度入学 博士印刷枚数データ

	2006年	2007年	2008年	2009年	4年間合計
	4019	1593	3647		9259
	707	490			1197
	2567	2265	4555	12984	22371
	7274	3503	6773	31808	49358
	6906	5718	2340		14964
	2671	3492	4356	8351	18870
	1540	738	375		2653
	404	86			490
	1215	233	177	4	1629
	431	61	398	5	895
合計	27734	18179	22621	53152	121686

	2006年	2007年	2008年	2009年	4年間
1人の最高印刷枚数	7274枚	5718枚	6773枚	31808枚	49358枚
1人の最低印刷枚数	404枚	61枚	177枚	4枚	490枚
平均	2773枚	1818枚	2828枚	10630枚	12169枚

2007年度入学 博士印刷枚数データ

	2007年	2008年	2009年	2010年	4年間合計
	3957	5423	9121		18501
	610	225			835
	1780	1038	1213		4031
	4419	5641	9851		19911
	5819	1786	1733		9338
	4857	7883	9280		22020
	1113	90	26		1229
	2619	689	2542		5850
	2429	1360	400		4189
	793				793
	1208	635	477		2320
合計	29604	24770	34643	0	89017

	2007年	2008年	2009年	2010年	3年間
1人の最高印刷枚数	5819	7883	9851		22020
1人の最低印刷枚数	610	90	26		793
平均	2691	2477	3849		8092

次年度(2011年度)から
 聖路加看護大学コンピュータネットワークシステム利用者各位

年間印刷枚数の上限値を設定します

次年度(2011年度)より大学のプリンターで印刷できる枚数を個別に設定します。

印刷上限値(年間あたり、年度繰越しはありません)	1年	2年	3年	4年	計
学部生	1,000	1,000	1,000	2,000	5,000
学士編入生	—	1,500	1,500	2,000	5,000
修士	4,000	8,000	—	—	12,000
修士(社会人)	4,000	4,000	4,000	—	12,000
博士	5,000	5,000	10,000	—	20,000
認定看護師教育課程	1,000 / 9ヶ月間				1,000
認定看護管理者	300 / 2ヶ月間				300

どの位印刷したか、わかりますか？

上限値を超えてしまったら？

出力状況をインターネットで確認することができます。コンピューターホームページのトップ画面からリンクされています。

印刷ができなくなります。再度出力できるようにしたい場合には教務への申請が必要となります。

— お知らせ —
 印刷時のヘッダーへのID印刷の有無が選択できるようになります。

*質問がある方は、まずは各年度の情報システム委員までどうぞ。

2011.1.21 情報システム委員会

図 印刷枚数上限値設定ポスター

国際交流委員会

1. 構成員

[委員長] 深谷計子

[委員] 梶井文子、堀成美、五十嵐ゆかり、中島薫

2. 役割・職務

国際交流委員会規程に基づく。

3. 活動内容

- 1) タイ・マヒドン大学シリラート校交換研修参加者（認定申請者3名）および韓国・ヨンセイ大学交換絵研修プログラム参加者（認定申請者4名）に対する単位認定
- 2) ①ヴィラノバ大学夏季交換研修生（1名）派遣学生の募集、書類選考の実施
 ②マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）受け入れプログラムの実施
 ③マヒドン大学／ヨンセイ大学交換研修生（各4名）派遣学生の募集、選考の実施
- 3) 学生国際交流委員会による交換研修生歓迎会、交流プログラムの企画および実施
- 4) 聖路加看護大学 Global Health Seminar の実施

4. 課題

- 1) 前年度の課題（交換交流プログラムにおける看護科目の充実、ホームステイ先の確保、派遣プログラム応募促進、学生交流委員会の活性化）を解決するための方策の一つとして「聖路加看護大学 Global Health Seminar」を企画・実施した。学生のグローバルな視点を養い、海外への関心を喚起することで、本学の国際交流活動への積極的な参加を促すとともに、本学の教育の特色のひとつである国際性の醸成を前面に打ち出す企画の実施により、本学国際交流事業全般の活性化を狙うものであり、2011年度も引き続き実施を予定している。
- 2) 受入先の事情により、米国・ヴィラノバ大学との交換留学プログラムを終了することとなったため、これに代わる新しいプログラムの検討が必要である。

5. 資料・データ

表1 2010年度交換研修プログラム等実績

国	学校・プログラム名	滞在期間	参加者名
受 入	タイ マヒドン大学	2010年5月6日(木) ～5月18日(水)	シリラート校： Ms. Poranee Posawang (3年生) Ms. Sathinee Srikunnikanon (3年生) ラマティボディ校： Ms. Pailin Thong thai (3年生) Ms. Titaree Ditsirapong (3年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2010年6月27日(日) ～7月10日(土)	Ms. Jeong Eunjin (4年生) Ms. Choo Sung Hye (4年生) Ms. Park Hyun Wook (4年生) Ms. Lee Mi Hyun (4年生)
派 遣	米国 ヴィラノバ大学	2010年8月2日(日) ～8月23日(土)	平川 瑠華 (3年生)
	タイ マヒドン大学 シリラート校	2010年8月17日(火) ～8月30日(月)	黒白 夏妃 (4年生) 佐藤 繭子 (4年生) 荒木 理紗 (学士13) 粟飯原綾佳 (2年生)
	韓国 ヨンセイ大学	2010年8月31日(火) ～9月13日(月)	小西 咲 (4年生) 古川 愛 (4年生) 海老沢 実樹 (学士12) 金 有実 (学士12)

表2 聖路加看護大学 Global Health Seminar2010 実績

日 時	講 師 名	参加者数
2010年10月16日(土)	齋藤あや (Class of 1997)、梅田麻希 (Class of 2000)	60名
2010年12月4日(土)	内山文香 (Class of 2004)、小黒道子 (Class of 1995)	48名

表彰運営委員会

1. 構成員

[委員(教職員)] 山田雅子、大熊恵子、實崎美奈、森島久美子、畠山小巻

[委員(学生)] 松本真緒・横川彩夏(4年生)、岸本梨沙・小林俊介(3年生)、高取由美・横林典子・和田真奈美(2年生)、浅海りり子・田中千紘・別府 紫・丸山 紗希・安本 悠(1年生)

2. 役割・職務

学生や教職員が互いの努力を称え、感謝の気持ちを伝えあう機会を作ることを目的とする。

3. 活動内容

昨年度の表彰については、教員・職員より概ね好評であったため、今年度は昨年度と同じ内容で活動を継続した。引き続き、ランキングを重視しないこと、教員・職員・学生・関係者を広く表彰の対象とすること、表彰者決定のプロセスを分かりやすく伝えることに留意した。

表彰式は、創立記念行事に引き続き、講堂で執り行った。表彰については、学園ニュースと看護ネットに紹介した。

4. 課題

投票者数が少ないことが課題である。引き続き表彰運営委員会の活動を広報しながら、地道に参加者を増やしていきたい。

また、活動資金を寄付に頼っていたが、次年度は委員会活動費として予算化することができた。

5. 資料・データ

表 表彰および紹介対象者一覧（敬称略）

	項目	表彰及び紹介対象者
1	グッドプレゼンター賞	「知的障害者への性教育の現状と問題点、支援のあり方について」小西 咲（4年生）
2	グッドティーチャー賞	深谷 計子（英語担当）
3	チャプレン賞	「星の王子さまから見るキリスト教」 深堀書加、藤井理華、藤田ゆり、舟塚愛美、古内早紀、別府紫、穂積咲希、堀 真紀子（1年生）
4	グッドボランティア	いちごフレンド、ナイトフレンド、だいじょ部、マナー委員、小屋野幸呼（4年生）、金有実（4年生）
5	SL スター	伊藤節子・山下郁代（学食スタッフ）、越、酒巻（用務員）、石川智美（2年生）、天岡、嶋田（総務）、教務課の女性、中山久子、堀、角田、廣瀬、佐居夫妻、日野原
6	学会等での受賞者	梶井 文子 ・ JTTA2010 in MISHIMA 日本遠隔医療学会学術大会優秀論文賞 論文名：認知症高齢者の学際的チームアプローチによるケアの質評価 Web システム —使用前後における利用者ならびにチームアプローチの変化の検討— ・ 第11回日本認知症ケア学会石崎賞 発表演題：在宅認知症高齢者のサービス提供者間における連携強化のための情報交換のあり方
		大森 純子 ・ 第 69 回日本公衆衛生学会奨励賞 受賞した業績：社会集団の文化と社会関係を基盤とした公衆衛生活動の実践と研究 小林 真朝 ・ 日本地域看護学会奨励論文賞 論文名：市町村保健師による保健事業における委託の意味づけ—住民との関係性のとらえ方のパターンによる分析— 著 者：小林 真朝、麻原 きよみ 掲載誌：日本地域看護学会誌 第10巻1号 森 明子 ・ 日本看護科学学会優秀賞 論文名：Supporting stress management for women undergoing the early stages of fertility treatment: A cluster-randomized controlled trial 掲載誌：JJNS 6(1), 2009

紀要委員会

1. 構成員

〔委員長〕 林 直子

〔委員〕 實崎美奈、田代真理、田口 瞳

2. 役割・職務

- 1) 聖路加看護大学紀要委員会規程を参照

3. 活動内容

1) 紀要第37号の発行

- (1) 4、5月に投稿募集をファカルティ・スタッフミーティングおよびメールで呼びかけ、6月に投稿予定者の確認を行った。
- (2) 短報での投稿申込のあった著者に対し、論文種類について改めて解説を行い、論文種類の変更の意向を確認した。

- (3) 6月末に複数業者に見積もりを取り、10月に投稿数が確定したのちに業者を正式に決定した(瀬味証券)。
- (4) 11月に投稿原稿を受け取り、編集作業を進めた。
- (5) 6月の申し込み時点では19本(原著3、研究報告4、論説1、短報11)であった。その後、原稿の取り下げ、論文種類の変更等があり、最終的には10本(研究報告1、短報9)となった。
- (6) 3月16日に700部を配布した。

2) 聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項の作成

著者からホームページへの紀要論文(PDFファイル)掲載の希望があった。これを受け、委員会にて「聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項」を作成し、教授会での承認を経た上で著者へ受諾する旨を連絡した。「聖路加看護大学紀要委員会 著作権申し合わせ事項」は委員会規程等と同様に学内サイト(イントラ)に掲載した。またその内容に沿うように、規程を一部修正した。

3) 紀要のあり方に関するアンケート調査の実施

前年度からの課題であった原著論文の投稿数の減少および全体的な投稿数の減少に伴い、本紀要のあり方を再考すべく、全教員・図書館司書に対して紀要のあり方に関するアンケートを実施した(結果は資料に掲載)。

本アンケート調査は、3月8日の教授会にて報告し、下記の課題を提示した。

4. 課題

- 1) 原稿数の増加につながる紀要の演題募集の時期を検討する
- 2) 投稿論文の内容が論文種類に合致しないとの意見が委員会に寄せられた。これに対し『短報』は昨年度導入したばかりであり、今年度は本委員会が定める内容に沿うものとなるよう編集担当者が著者に内容、構成の調整を働きかけ、随時確認を行った。今後、今年度の紀要に対する意見を広く求め、今回実施した調査結果と併せて方向性を検討する
- 3) 紀要の質を維持するため、委員会として全投稿論文の内容が論文種類に適したものであるかどうかについて、これまで以上に確認する。

5. 資料

- 1) 実施日：2010年11月
- 2) 配布数：67、回答数：29(回収率43.3%)
- 3) 結果
 - (1) 聖路加看護大学紀要への原著・研究報告等の査読を要する論文種類の投稿数が減少している理由

	人数(複数回答・人)
申し込み締め切りが早い	6
申し込み後の原稿投稿締め切りが早い	3
他の学術雑誌への投稿希望のため	21
査読があるため	2
その他	7

- (2) 昨年度より論文種類に短報を加えたが、短報についてどう思うか。(28人回答)

「適切である」 19人

理由：・本学の活動報告記録として短報が機能すると考えれば現状は適切

- ・研究の過程で行った活動を報告できる投稿先はほとんどないので、短報を載せていただいてありがたい
- ・大学のプレティンなので、研究、教育その他活動を広く記録に残せるため。

「改善の必要がある」 6人

理由：・一般で言う短報の定義とは異なる。

- ・紀要に掲載されている短報は、必ずしも短報ではないと思うようなものが入っている。

「どちらとも言えない」 3人

理由：・修士論文などは学外の専門の学術雑誌に投稿すべきと思うが、課題研究でレビューをまとめたものを発表できる場としてもあるとよい。

- ・本学に関連する事業や教育などの内容や評価を知ることができるので短報があるとよい。

- (3) 今年度の紀要は短報のみとなっている。今後も論文種類が短報に偏る可能性があるが、この現状についてどう考えるか。(24人回答、重複あり)

- ・原著のエントリーが継続できるような工夫が必要

(査読のあり方の検討等) (7人)

- ・学内の活動や試みを報告する場がほかにないので、短報が増えても仕方がない・意義がある (7人)
- ・原著・研究報告は他の学術雑誌に投稿するので、原著が少なく短報が多くなっても仕方がない (6人)
- ・紀要の意義について学内で検討すべき (2人)

(4) 今後の紀要の形態について (29人回答)

「電子版のみ」 12人

- 理由：・検索できて印刷できればそれでよい。
・エコロジーの観点および経費節減のため。

「電子版と印刷版」 15人

- 理由：・電子のみの出版を保証する体制 (災害時のためにデータを別地域にも分散保存する等) をとれていないので、印刷物はまだ必要だと思う。
・アナログデータ、デジタルデータともに後世に残していく。予算がなければデジタルのみ。
・大学の広報になるので、印刷物もあると便利。

オリエンテーション・セミナー委員会

1. 構成員

[委員長] 菊田文夫

[委員] 卯野木健、大橋久美子、蛭田明子

2. 役割・職務

新入生オリエンテーション・セミナーの企画、実施

3. 活動内容

1) 新入生オリエンテーション・セミナーの開催

本学学部入学生を対象として、本学の理念およびカリキュラムへの理解、上級生や教職員との交流、さらに、新入生相互の交流などの促進を目的に、2010年度新入生オリエンテーション・セミナーを、財団法人キープ協会清泉寮において開催した。なお、本セミナーは、多数の上級生ならびに教職員の協力の下に実施されたものである。

日時：2010年4月9日(金)、10日(土) 1泊2日

場所：財団法人キープ協会清泉寮 (山梨県北杜市

高根町清里 3545)

参加者：新入生105名、上級生32名、教員32名

●プログラム

4月9日(金)

9:00 大学出発 (バスで清里まで移動)
昼食後

13:15-15:00 ポールラッシュ記念センター見学
(正木実)

15:10-16:30 レクリエーション (大濱あつ子)

17:30- タベの祈り (ケビン・シーバー)

18:00-19:00 夕食

19:00-21:00 上級生企画

4月10日(土)

7:00- 朝の祈り (上田憲明)

8:00- 9:00 朝食

9:00- 9:45 学長講演「本学の歴史と理念」
(井部俊子)

10:00-13:00 グループワーク

「春を探そう、仲間を知ろう」
(昼食持参でフィールドへ)

13:15-14:15 わかちあい「私たちの出発」

14:15-14:45 学部長講演「大学で学ぶ」
(菱沼典子)

15:00 清泉寮出発 (バスで大学まで移動)

2) オリエンテーション・セミナーレポート

新入生オリエンテーション・セミナーに参加した新入生の感想とグループワークの結果をまとめたレポート(冊子)を2011年2月25日付けで発行し、新入生および教員に配布した。

4. 課題

入学式後の新入生を対象とした学内オリエンテーションには、事務局、教務部、図書館、学生部、健康管理室など、多様な部局部門が関与している。そこで、これらの部局部門とオリエンテーション・セミナー委員会が連携しながら、新入生の新たな生活のスタートを効果的に支援する体制をつくりあげていく必要があるのではないかと考える。

FD・SD委員会

1. 構成員

[委員長] 飯岡由紀子

[委員] 留目宏美、野田由美子、松本直子、豊島景子

2. 役割・職務

学部・大学院教育推進のためのFD・SD研修会の企画、実施

3. 活動内容

1) FD・SD研修会企画および実施

(1) 前期は、FD・SD weekとして主な対象を設定した研修会(2時間)を3回実施した。

①第1回

対象: 新任・若手教員 テーマ: 「授業の作り方ー入門編」

形式: 授業づくりに関する講演+グループ討議

参加人数 28名

②第2回

対象: 職員 テーマ: 「聖路加看護大学における職員研修のあり方」

形式: 他大学のSD状況報告+グループ討議

参加人数 26名

③第3回

対象: 教授・准教授、職員

テーマ: 「大学経営を踏まえて今後の聖路加看護大学の発展を考える」

形式: 本学の経営に関する報告+全体討議

参加人数 41名

(2) 後期は、本学客員教授による研究法の講演と教職員全員を対象とした研修会を行った。

④特別講演「Advancing Global Health through Nursing Research: Innovative Approaches」

講師: Kathleen F.Norr

⑤第4回

対象: 教職員 テーマ「事例で学ぶアカデミックハラスメント」

形式: AM 講演+PM グループ討議(事例を用いて)

講師: NPO 法人アカデミックハラスメントをなくすネットワーク 代表理事御輿久美子参加人数 37名

2) 次年度以降のFD・SD研修会をより組織的な取り組みとするため、看護学教員研修プログラム及びSD研修プログラム(案)を立案した(資料参照)。

4. 課題

1) 主な対象を設定した研修会は概ね好評であったことより、今後も継続することとする。

2) 討議形式の研修会を多く取り入れたことは参加者から有意義であったと評価されたことより、今後も研修会の形式の工夫や対象者のニーズを反映して研修会を企画する。

3) 研修プログラムの立案までは行ったので、今後はプログラムを実施して、有効性を評価することが課題となる。

5. 資料・データ

1) 看護学教員研修プログラム(案)

教育、研究、管理・運営、社会貢献を横軸に、レベルⅠ～Ⅲを縦軸にしたFDマップを作成した。レベルⅠは「基礎的知識とスキルを備える」レベルⅡは「能力を向上させる」レベルⅢは「包括的な課題に取り組む、複雑な事象に対応できる」を目標とした。それぞれの期待される能力に応じた目標と研修テーマを考えた。

2) SD研修プログラム(案)

求められる職員像を設定し、階層別の研修を考えた。初任者、一般職員、管理職ごとに研修を考え、その他職員全体を対象とした目的別研修も設定した。